尺子集　二

特別
へ5
6039
2

八5-4
6039
2

56-4068

狗猫集題目録

妹沢

初秋 十一　七夕 二　一葉 三
秋桐　秋螢　梅扇
露　蓍　萩
秋草　草花　蘇
釣船　木槌　女郎花
桔梗　蘭　落

アナキ
横山重

蕎　秋田　稲妻
虫　鹿　鶉
小雪　糸雪　雁
略　海船　碁
木実　月　名月　付十四日
十三夜　菊　紅葉
名残　紅葉　紅葉紅
菊　九月末　新炉

狗猫集巻第四

炉上　初秋

此の日ごろ涼しくなりぬれば　貞徳
身のうきもいとはるるかな　同
風の音の秋の袋の口やあらぬ　重次

七夕

七夕の明るやいとまなくて乞巧奠

質屋乃亭にて

七夕に今年七月乃ふたつや乃　貞徳

七夕乃ふたつとも宵乃月　同

織女いとを織よりやゆく末布　同

衣くゝとも七夕の織ゝ乃　紫吉

数をいとを孫乗星乃ひかり乃　定一

牽牛乃鞘附やうの海　嘉

一葉

一葉とも花ゝ木のゝ乃ゝあ文風　貞徳

一葉の舟乃帆縄ゝの糸柳　正直

一葉とゝもちゝ不同哉　芳爰

林柳

妹ハ形柳の糸力落ちゝ　一正

林風て髪ゝ乃ゝ柳哉　氏重

清水寺ゝ乃ゝ柳哉　氏重

金糸に黄ゝ乃ゝ柳や観世音　正直

林堂

人乃ゝ姿ゝ乃ゝ蛍ゝ　徳元

蛍火や吹ひすて煙の風の口　我堂

煙扇

秋来ぬとハ誰しらせしも扇かな
ちるや秋霧と扇の風ちらす　家人
煙風の立てハあつさの別れ　一正

露

玉ちるや
袖ちるやちるとハ露の玉ちるや　利清
世ちるや

無人の風ちるや露の玉　紫吉
見てけるや木賊ちるや露の玉　玄礼
芦の葉の芋ちるや蓮の眼玉　正亜

露

伊勢信作の人　福氣平護
乃坂ちるく
雲雨式ちるの日や玉屋　貞風
出天に玉ハ玉地の玉ちるや　重勝

萩

嵐風乃宣宿なれや萩の葉　貞徳
萩と松や常盤木の中風　同

伊勢へ参りし時

演萩と伊勢おろしの松乃琴　重頼
秋来ぬと書間すゑの萩の声　同

秋草

西瓜とも萩やさまざまの錦
秋乃ふるく　同

草花

ちる花や風と押しも寄の迫
切ちる人もくるやたゝ子草　貞徳
赤ゐと鶴ちらつ草　徳元
うつるとて黄菊ちる鬼薊　徳元
水鉢のきらくゝ鉢の月草　貞徳
なくゝ大宝丸実ゝ新　玉及　同
聖色の秋も立ちぬ蛍草　重頼
大菊ゝ花ほうゝ摘ゝ　同

秋乃野乃風に乱れて花すゝき　長吉
思ふ屋根葺て見せぬ小車の　重勝

蘇

まゝこ撫しこゝろ蘇やすらん
茅の陰て小蘇すゝ咲
蘇多て踏ゝ秀ゝ
家ゝ
高城野乃蘇武　徳元
小蘇　利信
ゝ子ゝ野の蘇武　正章

馬歯苋乃紅花　重勝

朋蘇

白蘇ゝ紅ゝ水ゝ
ゝ咲て幸生　貞徳
紅蘇ゝ花の日ゝ　重勝
紅ゝ水瑩ゝ玉　重勝

木槿

康ゝ

見く

位あるむさしの花や春の雨　平
嶋島の雨の木ともなりぬ　体音

女郎花

男山へ吉野の雨に女郎花　徳元
めの郎花男やもとの家　家
秋風の吹いたやうな女郎花　貞徳

蔦紅葉に

見てもうつくしや長老　重頼

桔梗

野辺の花ともなり桔梗哉　徳元
田舎の神の人の許て
花ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　重頼

蘭

我もうつくしく人もうつくしく　宗友
蘭の香を重ねて香盛　正綱
風の蘭ちらし文の反物　政昌
蘭風の腰とまりの藤袴　氏重

西蘿乃恩の礼儀ヶ夜ゝ夜　良徳

黄葉[illegible]ちらんもみちや実枕に　重頼

ゆらこれもちらんもみちや貴人の秋　同

鴈

なきおるゝ鴈やあらんいそ鴈　正利

ちる玉章の玉[illegible]ひせく[illegible]文字　清一

[illegible]くまでかもしれぬやかな護鴈　正盛

ゆる[illegible]や[illegible]袖乃なみだかん　重頼

蔦

蔦さやそをらね蔦団子　貞徳

あさ[illegible]蔦はたんこのまかく葛蔦　[illegible]

くて[illegible]人いうし[illegible]蔦たんこ　重頼

秋田

乞[illegible]まで田[illegible]やよみよ　貞徳

棹鹿乃かる田は荒も検地哉　貞友

山田ある僧都ゝ[illegible]ひいやうかな　同

[illegible]ハ[illegible]居乃の山田に　休元

刈とる山田あり　信勝
掉歌も皆引　田歌　民重
長やうてうたてかり田　同
やうく小く
煤乃田も八まん　重勝
ものうう雲　正直

稲妻

稲妻の雨　彦徳
ふるも光源氏　重勝

虫

蟲とも鳴　信勝
木も草も秋の虫ひく
ちくさ　同
鈴虫の　同
鈴虫の　貞徳
鈴虫の　同

或事にく

煤の虫　同
乃　利清

[illegible] 一正
[illegible] 貞継
[illegible] 利房
[illegible] 親重
[illegible] 同
[illegible] 政重

鹿

[illegible] 中[illegible]鹿[illegible]
[illegible]鹿の[illegible]
[illegible]鹿乃詳 貞徳

[illegible] 同
麻[illegible] 徳元
[illegible]鹿の[illegible] 同
[illegible] 十[illegible] 親重
[illegible]鹿や猩[illegible] 重勝

鶴

[illegible]鶴
一[illegible]鶴[illegible] 貞徳
[illegible]鶴[illegible] 同

野も春の遠懐とうち鳴くうぐ　重房
長鳴をとりの声に似る鶯　重教

小雪折

居るうちに雪の紙の小雪折　為友
あつまれいさもの折の小雪折　俊音
数生成るハつ春の小雪折　宗正

冬雪

雪の林ハ雪の中の神もや　十時　徳元
錦木を只今島乃とあり武　成安

雁

数よりの雁の数ハ雁ハ　貞徳
掉ものてハ雁ハ雁ハ　同
雁と雁と雁ハ雁ハ　同
又つくもてハ雁ハ　為友
久方に雁ハ雁ハ　親重
月の雁乃掉ハ雁ハ　同
叫ハ雁ハ雁ハ　同
雁ハ雁ハ雁ハ　宗保
雁ハ雁ハ雁ハ　元宣
雁ハ雁ハ雁ハ　氏重
雁ハ雁ハ雁ハ　同

[illegible]

[illegible]　重頼

[illegible]　同

[illegible]　同

鵜

[illegible]人の[illegible]　徳元

[illegible]鵜の[illegible]　徳音

[illegible]　重頼

渋鮎

[illegible]鮎の渋[illegible]に[illegible]石[illegible]　光香

[illegible]　重頼

磯

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

木菟

[illegible]　貞徳

[illegible]　芝友

此柿木ハかうしけふし乃本家哉
物乃名残かるや亡き人さ柿
長き夜も残る栗乃見あけふ
大嶺人つくもかまむる柿
茶入ありて御菓子にいれ置ふ
植し庭之先山しやこゝうの木

玄吉云唐人之時　玄旨

かしこも見へ末見ハ路をきくしさ哉
山しくも付ても寸や胡桃　徳元
くるみ付くかうむ栗の名ハめゝ　同

讃岐国へ下りし時

取よくニゆくやあれ見え柿　貞継
にるまするやる折しの枝　利清
かれハ庭に先の吉野にふ　一村
山里やきこよの木練あな柿　保職
甚椎も車座で々御菓子にふ　重頼

武人しよまとに

王ハなしめハおのれ見えの世界にふ　同
九年母や遠方まかれ乃此代ハ　貞友

狗猫集巻之五

秋下

月

新月遠目ニ見ル西ニ月の新部

月ニ寄テ二九乃十八歌

兵庫ゆく

沖ゆくや兵庫ゆく月ゆ梅の雲

蝋燭屋にて

有明の山人ゝ乃ちゝ雲

林風を初ち月の大うち

雲は歌風を玉月乃味百船
出ちぬ立入ぬ月や屋志ち
行ぬ月や金乃盃の海乃月
笠ちぬ入ぬ雲ん有る盃ぬ月
ひ方ものや出ぬ月乃利益
山姫乃姿乃や月の大明見
長濱へ西へ行く方山ぬ
入方年乃
雲ぬ海乃月や月乃海
行ぬ月と月乃笠ぬ光ぬ船

出ぬ雲や月乃笠ぬ
ちんこぬ月や長寿の秋と昼
雲に月の重ん知らう桂乃と
ひぬ付て入日乃世の三ケの月 夏桂
釣針て盃ぬ雲ぬ月 月
秋射ぬ弦ぬ月の弓 月
三ヶ月の弓ぬ月ぬ月 月
天筆ぬ月乃鬼の毛 月
雲ぬ蛇呑こむ月ぬ蛙乃舟 月
月乃野ぬ月や海の風 月

皆人の心ひとつ秋の月や　同
梵天のまつりの焼鐵の宵の月　同
山の端はいとはれて月の秋　同
月の秋も友の面影　同
遠山の雪を皆白銀の月秋　同
雲ちらす嵐や月の力なれ　徳元
淮し秋の新や胸よりの月　同
油月ちりんちりんの光り哉　春丁
十五夜秋月よりもそれ
もちつきはいまんちの月の天慶か　同

十五夜月蝕
まん丸の月の秋今宵　芳友
やとの月はいちにちの月のまと　同
月と日の光を車にかく　同
十月の扇にかくの銀河　徳元
西へ沈月のきるもの　同
なやとの月の雲の月の山の　徳甫
月蝕
もち月は上戸の紀秋今宵　同
二階座敷の月見哉　同

三界も二階もそなへ月日の家　玄札
星ひかりをそなへ月の光あて　高恵
月は芝世界ひかりを流す船　高人
天の月は只二つの物の如くなる　不業
鉤針や月よりの人の月の船　同
うしをや立ちの月のうつる　冨沢
月星を天の戸ひらく金具　同
つゝ山に月のまゝ堤　文性
水上月天地和合光る船　西沢
如是は地の底より出る月　西良

神仙の月を満珠の光る船　武治
三界をまゝうつる月日　徳廉
月を月より月は入る船　西京
月や車を流す牛の背　親重
月の下山に入る月の見　同
鞍馬の三国一や宮の月　同
天まゝの宮の月の船　同
絶水の月を海に流る　吉沢
天衣の月の九つの　政重
山の頭の三ツ月　西重

三千月八千人の同さ袖の露 同
山のふかさに立ぬれば月も 同
雲水の奥の釣舟こゆる月 同
信濃人まちわび侍
月も取あへず山の端の月 同
十七夜三沙弥
月にとなりまちわん十七夜 同
栖の西に成ぬとうつる月の影 久家
村雨に山の月の嵐哉 一正
長濱人西にて鐘濱の海

上にして
月出て郷音の離や鐘の濱 政昌
山眉にかくれもてる月の影 氏重
遠善
西へ行月や弘誓の海一舟 同
天の川に光海をうつる月 同
雲の上や月の光の天下一 長吉
池の水に七月や仏の座の 同
万燈にまぢる一灯の金の月 宗後
三千座の苔の鐘の三千の月 同

[illegible] 月乃ひかりに [illegible] 永徳
[illegible] 月乃四れる [illegible] 円
[illegible] [illegible] 円

世間人西行

月代に [illegible] 岑の四老家 円
横雲に八月四日乃月 [illegible] 正信
天人の衣文乃見つ [illegible] 円
月入て [illegible] 孤れ 正章
[illegible] 弓乃月 [illegible] 中 円
白川を [illegible] 月 重教

[illegible] 月の弓 円
天竺乃 [illegible] 弦の [illegible] 二十九日 円
山の [illegible] 鏡 [illegible] 夕月夜 円
天上へ [illegible] 月乃 [illegible] 円
唐まても日本一乃月 [illegible] 円
満月乃 [illegible] 円
橋乃八分 [illegible] この月の [illegible] 円
目 [illegible] 円

月物語

[illegible] 月 [illegible] 円

雲水の行方も知らぬ旅の空の月　是吉

名月　第十四首　付ケタリ

無庫にて

無玉の光や残る名月哉

十四日月の雲とまるや夏の月　夏徳

照月をとらぬ人のひとり哉　同

雲雀や羊の月の去る夕　同

うつろひよ或丁人西ちかよ

人を双ふとうて居たれ

うてやうく名月も出一十六秋　同

天ふ名月をとらぬ旨月　重一

名月ぞもそんにこそ面影　事

共月の伯父中良の男ふ　体音

十四日

とらぬひとりあるに月よ　芝友

月とんよりて蓮ぬ　同

武蔵屋ふ

うつろひの月計稲の外ふ　正徳

まるて

青ゝとてる月は羅漢の十六夜　長吉
芋も子成らでぐさ二ゝの月哉　西民
名月や烏帽子親や芋頭　重頼

十三夜

月蝕

ちくさすや栗名月乃出ぬ　貞徳
ちくさすや栗名月乃出ぬ　円
月ちくさすちくさすちくさ月　芋
ちくさ月ふくさ栗の末ぬ　政昌

二子ぬ栗名月乃新り松　親重
ちくさすや月のくさや西ち月　成吉
ちくさすちくさ九月乃十三夜　重頼

菊

澄ちかや菊色ての菊ぬ淵
ぬ迄ぬちよ白ちくさや白影
九日より

金前色ちくさの菊色
紙ちくさたちの菊草　益光

碑人やあらぬ世にきくは酒　西民
ちんこうよ立ちよる草　氏吉
露や元日紅ゆる菊の酒　吉長
垂籬小諸白重や重陽の露　氏行

祝言は産土参りの代うつ春まつ

雪の代うつ春まつ也塩の菊乃花　政昌

紅丹に菊重ねて生ぬ紙ぶて
花入や実はうつ乃ち菊草　長吉
菊秋菊八十嶋切よ有もの　義友
春垣に菊の旬乃ち老ぬ　親重

摘油乃旬の日のきれ菊　円
猩々乱とうつや菊乃酒　円
山の色て香や赤人菊の酒　円
菊ぬ林や胡蝶や菊酒の碑　正延
山口や渋香うせん菊乃酒　意彩
曽我菊乃こうつや五郎孝菊　円

多葉

菊ぬ乃はちりぬ和ぬ根
行子も乃ちうつ寿乃延

[illegible] 貞徳
山ちに [illegible] 重
ちりぬるかぜ [illegible] 親重

西國旅宿

[illegible] 氏重
おく山にけふこえてみるゆきの [illegible] 正信
ちりぬるまえの山もわさきのゆきの [illegible] 同
ちりぬるを百千万乃こゝろはなに 貞徳
墨染にゆきもせすしてゆきの [illegible] 重頼

石木紅葉

深くゆきをかさねて [illegible] 由己
清水に似たる [illegible] 貞徳
[illegible] 桜 [illegible]
[illegible] 梅の葉 同
[illegible] 柿の葉 同
[illegible] 徳元
[illegible] 重長
楓之 [illegible] 子俱
袖摺乃ぬいの [illegible] 柿葉 [illegible] 貞徳

雁かねもきけよ水や小時雨　正直

栗の木は紅葉せぬ身も時雨かな　良直

学拂も染めぬ時雨や硯かな　長吉

河内国錦部郡にて

柿や美柿の紅葉の錦新　貞継

芭や又燃は葉色の様なる　宣知

紅葉

上戸下戸まじる風雅や村紅葉

時雨来てもそめよ紅葉や茶の笠

山姫の赤まへたれの下紅葉

竜田姫たれとどくや下紅葉

公方義昭高尾へ紅葉見に

御物の時節さぞな文の中へ

またみられ一ちらちらいふ

これ発句せしと首あれ

おもふ一すじ人にて高尾の紅葉かな　玄利

紅葉ちらふれは林の木きに火かな　貞徳

よそよのは文字かきの木陰かな　同

酒や時雨のむら紅葉見る人も哉　同

山や高みの文を見て沙入日新同
次と九月の紅葉の色を油の如同
嵐風にそそんの山乃〳〵嵐同
あらけなき風や桂と一もみち 盛浩
紅葉して見んの色の深りが 等
見るや山の錦乃色を朱買 信甫
紅葉の社錦に合乃戸帳か 文性
山口も色の紅に成りて紅葉 重一
あらけなう実山口は〳〵紅葉 正友
立田姫入唐〳〵たつ叩〳〵行文 体音

多武峯にあるとも色の村紅葉 親重
山の腰乃枝珊瑚樹〳〵〳〵 同
茂るもみぢ乃紅葉か 同
色〳〵の紅葉や錦乃一面
松〳〵の紅葉いつしか日和 家後
錦乃板箱の紅葉や二重淀 政昌
常盤木の孤を紅葉屏風の絵 正信
出るひ紅葉に木にもの紅葉 重次
〳〵〳〵
紅葉〳〵敷の渚乃〳〵〳〵か 利房

和州にて

多武峯にてもみぢやの山　正亟

初紅葉の夢ぬけ　重頼

紅葉朝

川音は時雨や海の紅葉　貞徳

山海の秋なれやもみぢ朝　同

汁ものに紅葉朝　長吉

時雨にや海とあらそふ紅葉朝　重次

草

ひとくさ人あらそふ嵐草　貞徳

猫足の勝ぬるや嵐草　重頼

九月盡

秋ぬるあとをたれん時の元　貞徳

雜秋

奥の海ゆ出ぬ

生ける世に逢て聖人の川とき

猫迫門と云所にて
河堀の内に猫迫の
中略
世に本首曜と云
多くは皆麻布や米屋
大口にまつる
茅の子も
此の辺
大井の
海
同
同
同
同
奥州
亀井

こゝせうりよきゆゑハ盃ハ桃浅　同
名ハおしよ梅風ま山里そのまゑ　同
棚よ匙ハ菖蒲菊酒のくれ　同
身にしむハさあらし風乃狭衣　玄札
山姥と経とふ小やまさる姫　親重
芋の子も風や方にしむまゆの文　武寿
難波江よ見ゆるや芦の葉の舟　政直
文月のほ晦日ハまうしくに　利房
辛うき鞠やこゝろもとなき紅葉の秋　休音
多くの人よ姫ま七本よ貞女の花　重親

南部にて
旅葉はつく九重うなかりし　同
長崎へ西よりし対筑大国
白川ちるし花よ相撲せん
あるらぬきて
白川のみりよふきさるま西へ人に　同
芦の穂ゟ人を招ハ女乃手綿に　盤栄

狗猫集巻目録

冬部

初冬 才一　時雨 二
枇杷　冬桜
冬籠　霜
霰　雪
炉雪　鶯
埋火　歳暮
落葉 三
早梅
霙
氷
綿代
雑冬

狗猫集巻第六

冬

初冬

天[illegible]十月[illegible]小春[illegible]
年の間[illegible]小春[illegible]
先[illegible]頭[illegible]　貞徳
[illegible]　同
[illegible]風の神無月　廣恵
[illegible]神無月　玄札
[illegible]　親重

百一日湯治
所
所々
所々の名所
十月一日所々
真徳
渋谷紀州
同

山焼
同
六条道場
所々
同
村所
冨沢
寺尾
同
白切り所々
寺尾
徳元
山寺
所々
嘉永

落葉
木葉
大天狗

[illegible]

[illegible] 貞徳

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible] 久定

[illegible] 利清

十月

[illegible] 立一

毛穎 [illegible]

[illegible] 山口 [illegible] 八重咲 [illegible] 庶徳

枝尾の山 [illegible]

[illegible] 妄語 [illegible] 重頼

枇杷花

枇杷の花実一面 [illegible]

蜂見や [illegible] 枇杷の花 重頼

冬梅

冬ごもり [illegible]

冬咲 [illegible] 梅 成安

早梅

梓弓たてるもまとの野梅哉　素直

冬咲も春ちかひ人や咲梅乃花　正徳

冬月

冬ちかき月の氷ちり　正徳

雲ちりて光そ冴ける月よ　体音

冬の月見の宴　長吉

ちりはてし法師　賢結

霜

冬ちかく初もみぢ葉　正徳

ひとしほ紅ひくしもの色　同

生島の岩塩ちるや霜の花　重頼

白くたゆ素麺ちらす霜乃糸　丁勝

霜乃亟松の葉や銀の針

霙

菊の葉の梅の雨こそ酒

やはらかに降るも成るみぞれ

くしたる酒つくり新米を以
坪の内より新米を作りて是を
天水の壺やあるいは酒
坪の内に杉やあるの酒なり

貞徳
親重
氏重
同

霰

霰は雨も酒も共に文字霰成
氣の冷まして成る故霰
成る成べき方に成る故上戸歌

貞徳
同

三寸とそ有る
文治の比
長継

霰成る扇の骨や銀にて
木葉に似たる天狗礫の
降るや霰の数珠の玉あり
市に成るや四五の玉之
白柏の弄玉有る成

京徳
親重
長吉
長之
重勝

雪

山に有る白雪只白鷺成雪見成

白鷺城の花やさかりなる
高雄とあらうて雪の残れる
もみぢ葉にたとへたる木の葉
ちるもあはれなり神のちらす
秋雪の山式
秋雪の山式
初しぐれ
今の世の人
雪うもれ
雪の日場
雪の日場
雪のまへ神をすゑ奉る
神事も済まて日切白菊の花 貞徳
詠ぬ人と
富士のこと一枝よりてうゑ
見てて人も
雪の所とは
感ずも
山姫
寛永七年

冬 三十五

遠望の時

出門西望しつれば雪佛　同

九重もかさなりあひて雲乃一重乃如し　同

雪の秋の初潮やみちくるかたの白髮　同

神宮と芝も、ちやうの白文字　同

黄にあらそひあるや白文字　同

古くれの雪道てらす鳴乃枝　同

東國下向の時

日もすがら見ぬ乃ぬくもり　同

雪やまぬ白見乃ぬくもり　同

湖水の雪

雪やうす雪やうす白鷺　同

雪やうす雪やうす白胞衣　同

武州江戸にて

武蔵野乃雪こそ富士の山　同

梅の雪の雪の雪　孤心

松の雪や花の雪　望一

雪の雪の雪や雪の雪　永氏

白鷺の雪すはの雪　一九

我友と雪も見んすゝ雪　光貞

炭やこの炭乃雪　雪の山　西林

踏しめ人乃こしんてよ雪哉　素丘
ゆき〳〵ぬ雪や葛の木枯らしの山　素友
山のこゑ三国一の雪　同
よ柳ゆゑ雪の行と寄の哉　我堂

枝冊別

降さくとすゝむたんてん松哉　休甫
雪も今ゝ成ぬ行　同
光ぬ雪ぬうゝよ和もや寄仲　玄孔
面白と是やまさくとそ行乃雪　一正
枯木も花咲哉　正信

たまれ雪ゆゑ古寺乃梢の枝　同
花と〳〵雪ゆゑ降ゝの玉あゝ孔　同
雪ゆゑ月略も寄ゝ哉　正亞
綿よゝ成ゝ山ゝ寄ゆ松　同
雪乃秋行も面ゝ哉　同
長袖や日ゝ行てゝ寄仲　同
葉のゝ成風ゆ雪ゆ行雪ゆ紀　一村
雪やひゝへてゝ寄ゝ朱腦　重沢
浮浪ゝ花ゝ山ゝ冨士乃雪　正亞
山姫乃餅雪ゆ寄ゝ哉　是春

奥州ゟ人参ゟ

右之品々国元ゟ取寄ル 長崎

山芋小麦粉 陸奥紙 同

窓乃竹 ゟ出ル 掉の臺 同

ゟ出ル山ゟ出ル日乃嵐 同

雪汁ハ新のうて水ゟ出ル 同

奈良人西ゟ出

佐保姫ゟ出ル 同

山芋ハ

奈ゟ出ル

江戸へ西ゟ出富士一見

冨士山ハ雪て奥ゟ出ル 高野ゟ出ル

雪汁も湖ゟ出ル山 同

雪汁ハ天のあゝ乃ゟ出ル 同

ゟ出ル本ゟ出ル山 同

山ゟ出ル京ゟ出ル 同

陸奥ゟ出ル 綿 同

氷

手もたゆて川てらてる波れ
樋口より白鷺をあつる波れ
岩乃うらに寒てふかたてつる波
水のあやれ白いたる紙を見る波
職女をして書の川てる氷波
為晶てさてる池乃氷れ
奥乃為鶴の喉を氷波
紐しる水乃乃切こりる波 良逸
鉾の住池をこて寒の明乃なる 同

腰くむ海老や氷れ明見文 同
為樋よりをを氷さたる波 同
波乃あやれ波てる寒波 同
うとうてに見てる氷餅 芝麦
きをと乃て新のつる鬼角 川桂
波のつくをてくはた氷れ 注一
霜柱立の川や氷乃てる波 利清

小野にて
落ち上よにすも紙屋川 御元
志賀てして

[illegible]

[illegible]

鞍馬へ[illegible]て

光[illegible]の清[illegible]や利剣不動坂　良徳

櫻路を[illegible]る動乃つ[illegible]ル　為松

川つ[illegible]れ流乃[illegible]の[illegible]氷[illegible]松　永治

奈良に[illegible]

猿澤乃[illegible]ル[illegible]や[illegible]る翁　秀雄

鼓滝ふ[illegible]く

[illegible]の滝乃水川ル　唯雪

蓮池[illegible]ル[illegible]乃厚氷　親重

流れ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル松　同

池[illegible]ル氷[illegible]奥[illegible]目[illegible]ル　正重

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル氷[illegible]ル　氏重

川[illegible]ル一[illegible]ル[illegible]ル乃鼓ル　重新

氷島

[illegible]の[illegible]ル汁ル

数[illegible]ル思ひ[illegible]ル

池[illegible]ル鴨居ル

七条東洞門跡のく
廣文池の名もてし上四郎 貞徳
哥あてもてる河や千島足 同
東西ゝ
水名ゝ
淡路潟通ゝ須磨乃浦 同
名名ゝ
芦鶴ゝ
名島ゝ
警蓉乃長浦の池ゝ 同

宗牧
徳音
芳友

摂州のく
淀ゝ
ゝ
ゝ
海乃ゝ
鷲蓉ゝ
水島ゝ
名名ゝ
うゝ
主従ゝ

宗牧
貞徳
長吉
同
芳友
望一
也一
文英
重頼

角田川一見し附
東の田舎の名所都島 同

鷺

大鷺八拾羽の島に巣を成
着鷺も羽を乾の禁野に同
飛島や雲に鷺の火今改進

紺代

奥京茶金屋

京川や鯉うの丸あり重頼

炉火

高砂の紙帳の内の炭火中之
炭火も皆ひ[illegible]の炭火
重[illegible]

歳暮

[illegible]紙年の[illegible]竹の節成 [illegible]
あけ八重[illegible]の一[illegible] 真継
[illegible]年の額の[illegible] 徳元

くれて行年人のみぬハしりもなし　貞徳

尻もよく清めてけりな歳暮かな　同

韋駄天も走てぞかける年の暮　同

苞合の秋の子の実やけふの比　同

ゆく年のやせ木ゆすりて椎ふとし　利清

節分ハ門口もさす鰯の柊　長吉

鬼やらふふとき人の豆撒く　重頼

雑冬

寒の餅ハまろくて

今の世ハしりもかゝんかゝみ餅

羽箒ハ炭焼とかはるへし

酒の代りのよき炭の見ん

猿の尻木もしらぬ炭火哉

箒木も口切釜の掃除哉　貞盛

武人冬の明寒ある題絵

物くれ候よ

明寒に人のしる中　同

冬籠虫けらもあらし　同

僧正ヶ谷乃天狗や鞍馬寺　徳元

白すゝハ鳥も渡れる人に　同

五國下ニ於中ニて
すてゝ善井に[illegible]て國屋 同
吹まし酒やあつて[illegible]の中 同
下ゆく方ニ潮乃暦 同
大成の書風[illegible]しうの時 同
[illegible]白ゝ神樂[illegible]苑 [illegible]
あて[illegible]日[illegible]事
小[illegible]に揺[illegible]
根計この枝ニ二度ゝ[illegible]茂 [illegible]
[illegible]のうて[illegible]教[illegible] 同

[illegible]て[illegible]成て[illegible]
ニて[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]乳[illegible]て[illegible]
年内立[illegible]ふ
年乃内[illegible]
[illegible]時[illegible]猿乃屋

立[illegible] 貞継
[illegible]入 息佛 同
[illegible]の勢 親[illegible]

[illegible]日[illegible] 利清
[illegible]屋 一正

句数之事

读人不知　二百二十八句

京之住

由已　一句　玉琳　一句　丁勝　一句

玄利　二句　京玉　七句　氏重　四句

京二　一句　道茂　一句　京徳　四句

亟通　八句　玄竹　一句　正亟　五十句

松花　一句　京味　一句　長吉　廿二句

貞徳　二百句　子俱　一句　重勝　十句

偷閑　二句　盤栄　一句　正信　十六句

垂下 廿七句　親重七十七句　吉久 二句
休音 廿七句　光家 四句　利房 四句
垂益 四句　政昌 七句　一村 二句
重次 十一句　永治 六句　正重 一句
政垂 八句　長継 一句　政垂 二句
俊英 一句　正章 七句　利治 一句
宗俊 七句　西武 二句　堅結 二句
南垂 二句　章強 一句　永成 一句
為利 二句　芝右 二句　重正 一句
申之 一句　久家 一句　重頼 百五十四句

揚之住
宗恕 四句　武寿 二句　貞継 十四句
芸友 年百　成為 九句　一正 十七句
道臧 三句　元宣 一句　一之 二句
宗年 三句　吉沢 二句　一定 二句
久甫 一句　為重 一句　長之 一句
丁花 一句　與之 二句　高佐 一句
高利 一句

大坂之住
休甫 十四句

伊勢山田〻住

知閑 一句　未成 一句　為奎 一句
貞行 二句　成清 二句　南栄 二句
利清 十六句　真瀾 一句　文定 二句
孝時 九句　未祐 二句　元郷 二句
正義 八句　正徳 二句　富沃 四句
光貞 妻 六句　宗仁 四句　益光 二句
文性 五句　盛義 四句　正利 三句
弘浩 三句　不変 四句　久永 一句
盛澄 四句　唐恵 三句　成冨 二句

宗性 一句　未昆 一句　常屋 二句
千世 一句　易勝 一句　吉貞 二句
中善 一句　常利 一句　文重 一句
清親 四句　光貞 二句　常徳 一句
盛常 一句　宗次 二句　正滋 一句
成人 一句　未長 一句　常好 一句
惟正 一句　未満 一句　光玄 一句
玄心 一句　道的 一句　盛親 三句
貞成 一句　貞光 二句　弥心 一句
祐信 一句　幸光 一句　未直 一句

家人 二句 正家 一句 永貞 一句
滿假 一句 國成 一句 聖城 一句
光書 一句 孝宗 一句 正秋 一句
辰彥 一句 近用 二句 文英 一句
繼康 一句 長昌 二句 川權 一句
民吉 二句 孝彥 一句 未光 一句
吉長 二句 立政 一句 長純 一句
敬約 一句 正吉 一句 弘政 二句
正沃 二句 均澄 一句 魯泰 一句
重一 世句 正繼 一句 吉人 一句

威一 六句 性一 一句 載元 一句
清一 二句 聖一 二句 正京 一句
約一 一句 松一 一句 未能 一句
位一 一句 世一 二句 吉澄 一句
方一 一句

江戶之位

德元 七十句 唯雷 二句 友重 一句
玄札 七句 泰正 二句

同懷之位

崇松 二句 一成 一句

句数合一千五百二十八句

戸中牛
横山重